

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立若松原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語 193人	社会 192人	数学 192人
	理科 191人	英語 190人	

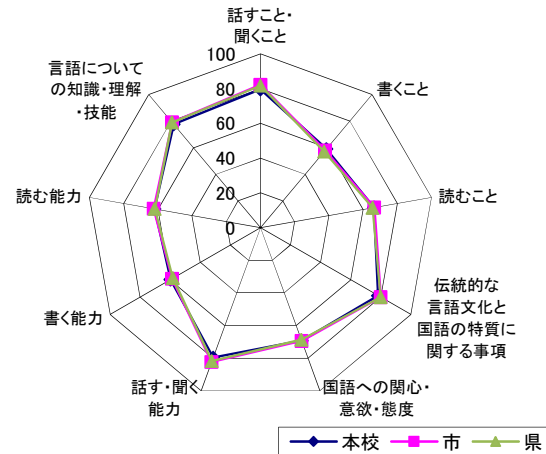
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立若松原中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	79.6	82.3	81.8
	書くこと	59.2	58.0	57.2
	読むこと	66.5	66.6	65.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.2	80.0	79.9
観点	国語への関心・意欲・態度	69.3	69.4	68.8
	話す・聞く能力	79.6	82.3	81.8
	書く能力	59.8	58.8	58.1
	読む能力	61.9	62.5	61.7
	言語についての知識・理解・技能	77.7	79.2	79.1



★指導の工夫と改善

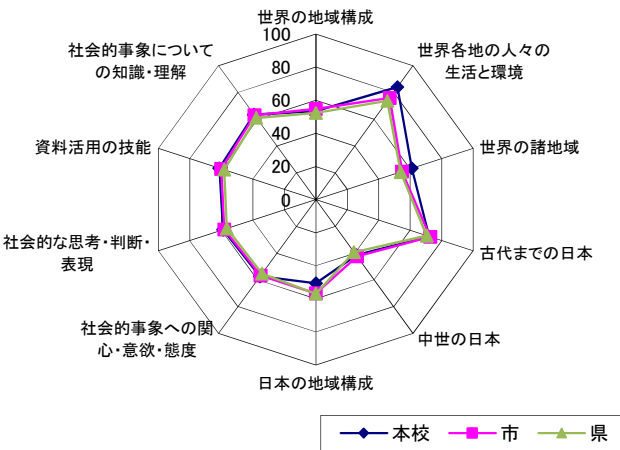
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	・平均正答率は、79.6%（市との差-2.7%，県との差-2.2%）であった。 ○話の内容を正確に聞き取る問題の平均正答率は県平均とほぼ同じであり、聞き取りテストを定期的に行った効果が表れた。 ●聞き手に理解してもらおう話し方の工夫を聞き取る問題の平均正答率は県平均をやや下回った。	・今後も継続して聞き取りテストを実施する。 ・他教科と連携して、言語活動を取り入れた授業を継続して実施し、発表や説明の機会を増やす。その際、聞き手に理解してもらおう話し方の工夫についても考えさせ、指導していく。
書くこと	・平均正答率は、59.2%（市との差+1.2，県との差+2.0）であった。 ○指定された字数で書くことができた生徒が70.5%であり、書けない生徒は減少している。授業で定期的に短作文を書く活動を取り入れた成果が表れたと考えられる。 ●伝えたい事実や事柄について自分の考えを明確にして書く問題の平均正答率は県平均を下回った。	・今後も継続して授業で短作文を書く活動を取り入れ、書くことに対する苦手意識や抵抗感を減らしていく。 ・適切に自分の意見を表現することを課題とし、小学校とも連携して取り組んできた。引き続き、小中一貫での取組に力を入れていく。
読むこと	・平均正答率は、66.5%（市との差-0.1%，県との差+0.9%）であった。 ○文章の展開をとらえて内容を整理する問題の平均正答率は、県平均を大きく上回った。全体を俯瞰させ構成を捉えさせる授業実践が成果として表れたと考えられる。 ●登場人物の心情の変化を捉える問題の平均正答率は県平均を下回っており、課題が残った。	・授業では発問を工夫して丁寧な読み取りを心がけてきた。今後も、細部の内容理解にとどまることなく、全体を見ながら構成を捉える指導をしていく。また、学んだ構成を使って文章を書く指導をするなどして、書く力の育成にもつなげる。 ・登場人物の心情を表す言葉や情景描写に注目させる機会を増やすなどの指導に力を入れる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	・平均正答率は、78.2%（市との差-1.8%，県との差-1.7%）であった。 ○故事成語についての問題の平均正答率は88.6%で、概ね満足できる。 ●漢字の読み書きの問題の正答率は市の平均、県の平均とともに下回っており、課題が残った。	・ことわざや故事成語、語句の意味を廊下に掲示したが、言葉に対する関心・理解を高めることにつながった。今後も継続して取り組んでいく。 ・漢字の読み書きは以前からの課題である。新出漢字のみでなく、小学校のころに学習した漢字も復習するなどして知識の定着を図り、漢字の読み書きテストを今後も継続していく。

宇都宮市立若松原中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	53.5	54.7	52.3
	世界各地の人々の生活と環境	84.0	75.9	73.7
	世界の諸地域	61.1	54.8	53.9
	古代までの日本	72.1	72.7	70.5
	中世の日本	41.7	42.4	39.3
	日本の地域構成	50.5	56.7	56.9
観点	社会的事象への関心・意欲・態度	57.3	56.7	55.3
	社会的な思考・判断・表現	58.9	58.1	56.4
	資料活用・技能	61.2	60.1	58.2
	社会的事象についての知識・理解	63.5	62.9	61.1



★指導の工夫と改善

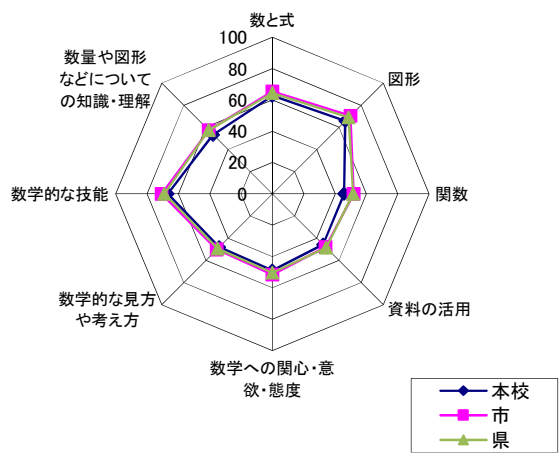
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	- 平均正答率は、県の平均をやや上回っており、市の平均をやや下回っている。 ○世界の地域区分の正答率は県平均を上回っている。世界地誌の学習において、学習の初めに白地図を必ず用いて、位置と地名の確認をしたことが要因と考えられる。 ●モルワイデ図法の読み取りが県の平均よりやや下回っており、課題として残った。	- 今後も、白地図を用いて、直接書き込ませるなどして、自然環境と関連させながら、地誌的分野の学習を進めていきたい。 ・さまざまな図法で描かれた地図を比較することで、その特色を理解できるように指導を工夫していきたい。
世界各地の人々の生活と環境	- 平均正答率は、県の平均、市の平均ともに大きく上回っている。 ○各気候帯の特徴を問う問題については県の平均を上回るなど、概ね良好な結果となった。 ●雨温図をもとに、世界各地の気候帯を読み取ることが県の平均をやや下回っており、課題として残った。	- 今後も、世界の人々の生活の様子については、動画資料を用いて、実際の生活の様子を目にすることで、イメージを持たせていく指導を継続していきたい。 ・雨温図と世界各地の気候を結び付けることができなかったことが要因として考えられる。気候区分における気候の特徴と、その気候の雨温図を関連付けながら学習を進めていきたい。
世界の諸地域	- 平均正答率は、県の平均、市の平均ともに大きく上回っている。 ○ヨーロッパの経済格差について、資料をもとに判断する問題は、県の平均を上回った。日頃の授業において、様々なデータを読み取らせていることが要因として考えられる。 ●モノカルチャー経済について、複数の資料をもとに判断することが県の平均を下回っており、課題として残った。	- 今後も、さまざまな統計資料を用いて、読み取らせる作業を授業において、継続して取り入れていきたい。 ・統計資料の読み取りは比較的できている生徒が多いが、複数の資料を比較して分析する作業を苦手としている生徒が多いと感じる。今後は、複数の資料を用いて、比較・分析させる活動を多く取り入れていきたい。
古代までの日本	- 平均正答率は、県の平均をやや上回っており、市の平均とほぼ同じである。 ○写真資料から基礎的・基本的内容の定着を図る問題においては高い正答率を得ている。資料を多く活用しながら授業を進めている成果であると思われる。 ●年表中の期間内に行われた出来事を問う問題の正答率が低いことから、前後の出来事から関連付けて答えを推測する能力において課題がある。	- 今後も、資料を活用した授業展開を行い、定期テストなどでも資料を用いた問題を多く取り入れていきたい。 ・定期テストに年表問題を取り入れ、類似問題を解く回数を増やしたい。
中世の日本	- 平均正答率は、県の平均をやや上回っており、市の平均をやや下回っている。 ○一問一答形式の正答率が高い。定期テストにおいてワークや単元プリントの知識問題に重点を置いている成果だと考えられる。 ●時代順に出来事を並び替える問題に課題がある。授業において起こった出来事をその背景を物語に見立てて理解させることを意識したい。	- 今後も、知識を問う問題を多用し、基礎的・基本的な知識の定着を図りたい。 ・記述問題をワークシートに多く取り入れ、語句指定への対応などの解き方を指導していきたい。
日本の地域構成	- 平均正答率は、県の平均、市の平均ともに下回っている。 ○日本の標準時子午線を問う問題については、県の平均を上回った。世界地図を用いながら日本の位置を捉える作業を取り入れた成果だと考えられる。 ●日本の領域をめぐる問題などが県の平均を下回っており、課題が残った。	- 今後も、地球儀や地図帳を活用して、世界から見た日本の位置や領域を俯瞰的に捉えることができるよう指導していきたい。 ・領域をめぐる問題や排他的経済水域に関する理解が不十分な生徒が多いので、デジタル教材を活用しながらイメージできるように指導を工夫していきたい。

宇都宮市立若松原中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	62.6	65.4	64.4
	図形	65.7	70.5	69.0
	関数	45.7	51.9	51.5
	資料の活用	45.7	48.1	48.6
観点	数学への関心・意欲・態度	48.8	51.5	50.4
	数学的な見方や考え方	48.1	50.2	49.4
	数学的な技能	66.7	70.6	68.9
	数量や図形などについての知識・理解	53.5	57.5	57.4



★指導の工夫と改善

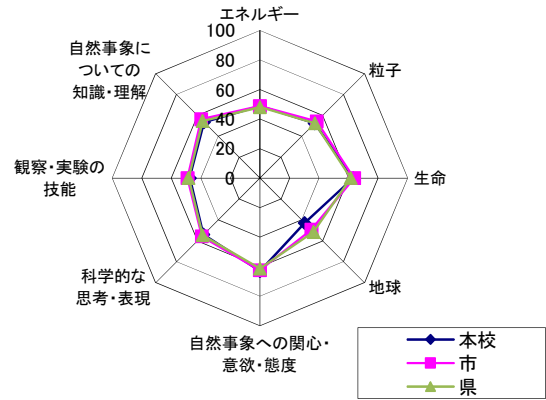
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	・平均正答率は、市よりも2.8ポイント低く、県よりも1.8ポイント低い。 ○正負の数、文字式、1次方程式のどれも、正答率が市や県と同程度である。 ●1次式の計算において、かっこをはずす際の計算の間違が多い。 ●n番目のタイルの数を説明する問題において、無回答の生徒が多く、正答率も低い。	・計算問題は、授業の中だけでなく、家庭でのドリル形式の課題を取り入れて基本の定着を図っていく。 ・正・負の数に関する知識が定着するように丁寧に指導し、計算を繰り返し解くことで正確に速く処理できる力をつけていく。 ・かっこの前にマイナスがついている場合や、移項した場合など、符号が変わるケースについて授業で理解を深めさせ、反復練習を行わせる。
図形	・平均正答率は、市よりも4.8ポイント低く、県よりも3.3ポイント低い。 ○平面図形の移動、作図、おうぎ形の面積、空間図形の体積のどれも、正答率が市や県と同程度である。 ●平面図形で、作図やおうぎ形の面積において、無回答の生徒が多く、正答率も低い。	・定規・コンパスを用いて丁寧な作図をし、図形の性質をきちんと理解させる。 ・実際の立体や視聴覚教材等を用いて、空間図形をイメージしやすくなるように配慮する。 ・おうぎ形の面積の求め方について、授業で指導する機会を設け、繰り返し問題演習を行わせる。
関数	・平均正答率は、市よりも6.2ポイント低く、県よりも5.8ポイント低い。 ○比例反比例の式やグラフの問題については、正答率が市や県と同程度である。 ●関数についての意味を理解することに課題がある。	・式・表・グラフの関係を理解できるよう、日常生活の中で関数に関連のある題材を用意し、生徒の興味・関心が高まるように努める。 ・関数の意味について指導していき、練習問題を繰り返し行っていく。
資料の活用	・平均正答率は、市よりも2.4ポイント低く、県よりも2.9ポイント低い。 ○度数分布表、代表値、ヒストグラム of のどれも、正答率が市や県と同程度である。 ●度数分布表から相対度数を求めることに課題がある。	・度数分布表や階級値、代表値などの意味を丁寧に指導する。その上で身近な事例を紹介し、興味・関心を高めるとともに知識の活用を図る。 ・データの処理や度数分布表の作成などにおいて、グループ活動を通して、協力しながら学び合う学習を取り入れる。

宇都宮市立若松原中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	48.9	48.8	48.1
	粒子	52.5	54.4	52.6
	生命	63.2	63.7	61.5
	地球	42.8	49.4	51.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	62.9	62.3	61.1
	科学的な思考・表現	54.0	55.7	54.8
	観察・実験の技能	47.5	49.0	48.3
	自然事象についての知識・理解	53.5	56.3	54.8



★指導の工夫と改善

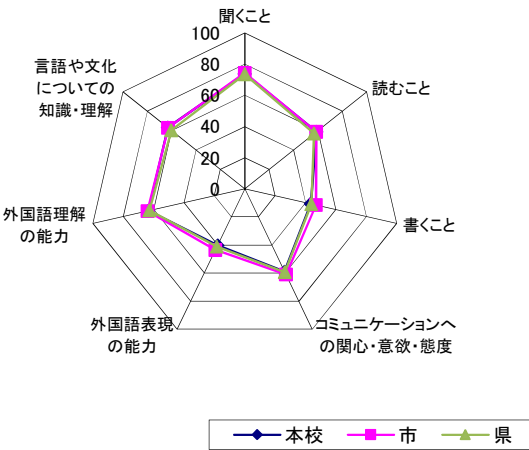
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	・平均正答率は、県の平均を上回った。(0.7ポイント) ○つり合っている2つの力の関係を考える問題は、県平均を上回っており、力を図で表して考察を行った成果であると考えられる。 ●光の性質では、スクリーンに映る像の大きさと向きについての理解が不足している。	・凸レンズの基本的な性質について、丁寧に復習するとともに、作図の練習を行うことで、物体と焦点の位置関係によってできる像の種類と像の大きさの関係について理解を深めさせる。
粒子	・平均正答率は、県の平均を下回った(-0.1ポイント) ○水溶液をしばらく置いたときの溶質のようすを、粒子モデルで考える問題は、県平均を上回っており、粒子モデルを用いた視覚的にわかる教材が効果的であったと考えられる。 ●水溶液の質量パーセント濃度を求める問題は、式を立てて計算をする力が不足している。	・水溶液の質量パーセント濃度を求める計算練習を行う際には、生徒の理解度に応じた問題を出題することで計算への苦手意識をなくしていく必要がある。その際に、AIドリルなどを活用していき、躓きへの十分なフィードバックを行っていくことで、計算力を高めていく。
生命	・平均正答率は、県の平均を上回った。(1.7ポイント) ○シダ植物とコケ植物の違いを答える問題や軟体動物を指摘する問題の正答率が県平均を上回った。 ●被子植物と裸子植物の花粉が出るつくりを答える問題の正答率が県平均を下回り、植物のつくりの理解が不足している。	・植物の体のつくりのはたらきでは、被子植物と裸子植物それぞれのつくりを覚えるだけでなく、同じはたらきのつくりに着目させることで、理解度を深めるように指導をしていく。 ・植物の体のつくりによって、分類されていることに着目させることで理解を深めていく。
地球	・平均正答率は、県平均を下回った。(-8.6ポイント) ●地球分野は全体的に県平均を下回っているため、基礎的な知識が身に付いていないことが考えられる。 ●特に、堆積岩についての問題では本校の正答率が20%を下回った。このことから、学習内容の定着度が低いことが考えられる。	・基礎的な知識を身につけるために、丁寧に演習問題を行う必要がある。 ・岩石の名前を覚えるだけでなく、岩石の標本を観察することで特徴的なつくりや含まれる鉱物にも着目させることで理解を深めさせる。 ・大谷石などを例に、身近な生活で使用されている岩石を取り上げることで、興味・関心を高める工夫をする。

宇都宮市立若松原中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	73.8	74.4	73.5
	読むこと	58.8	58.7	56.9
	書くこと	43.5	46.8	43.9
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	59.0	61.0	59.4
	外国語表現の能力	40.2	43.5	41.1
	外国語理解の能力	63.5	64.0	62.8
	言語や文化についての知識・理解	63.2	62.9	60.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率は市平均より0.6ポイント下回った。(県平均との差+0.3ポイント) ○絵を適切に表している英文を聞き取ったり、英文の内容を聞き取ったりする問題の正答率が高い。 ●流れてくる英文の概要を聞きとることができるが、要点を聞き取ることが難しい。 ●対話の内容を聞き取り、資料をもとに英語で答える問題の正答率が低い。	・リスニングテストを継続的に実施することにより聞き取りの力を充実させていく。また、ALTとチームティーチングを実施してきた成果がリスニング力の向上につながっており、今後それらの活動を数多く取り入れていく。 ・教師と生徒、生徒同士のコミュニケーション活動の機会を増やし、相手に応答する力をつけていく。また、質問とその答え方の指導を十分に行っていく。
読むこと	平均正答率は県平均より1.9ポイント上回った。(市平均との差+0.1ポイント) ○英文や対話文の情報を正しく読み取る問題の正答率が高い。 ●長文問題においてメールの内容を把握することや、読み取った内容をふまえて、英文を完成させる問題の正答率がとても低い。	・読解力の向上を図るために、英文の概要や要点をまとめる機会を増やしていく。また、英文を読むことに慣れるように、本文に関する質問やT-Fテストを通して読む力を高める。 ・英文を読むことが苦手な生徒に対し、平易な英文を用いた対応を実施する。また、語彙力の向上を図るため、基本的な単語、語彙の繰り返し学習や単語テストの機会を増やす。
書くこと	平均正答率は県平均より0.4ポイント下回った。(市平均との差-3.3ポイント) ○対話の流れに合った英文を書く問題の正答率が高い。 ●長文を読み取りで、読み取った内容をふまえて、英文を完成させる問題の正答率が低い。	・積極的に英語を使う場面やスキット作成などの活動を取り入れることで、コミュニケーションに対する意欲を高める指導を繰り返す。 ・基本的な単語の定着が不十分で、今後の課題である。文法事項はある程度身に付いている生徒が多い。今後は、授業の中で書いたものを確認させる活動や、自分の考えを書かせる機会を増やし、正しく書く力を身に付けさせる。

宇都宮市立若松原中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○●学習については、家での計画的な学習への取組みや宿題への取組みの様子、予習の様子は県・市町村の傾向とそう変わりはないが、「家で学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の生徒が多い反面、「計画的に学習」や「テストで間違えた問題の復習」に否定的回答をする生徒もみられる。予習復習やテストの見直しなどの学習を行なう習慣を身に付けて、自分にあった学習方法を見つけていくことが今後の学習意欲と学力向上につながると考えられる。

●「難しい問題にであうとよりやる気が出る。」「一人で課題を解決しようとしている。」の肯定回答割合が県・市町村よりわずかに低い。勉強していて「おもしろい」「楽しい」「不思議だ」「なぜだろう」と思う割合は県や市町村よりわずかに高いので、学習に対する興味関心を高めて、計画的継続的な学習につなげていきたい。

●平日の読書は10分～30分。1ヶ月に1～2冊が、県・市町村とともに割合が高いが、本校は「全くしない」の生徒が30.9%と割合が高い。また、新聞を読まない等の活字離れが顕著であり、インターネットで情報を得ているのが現状である。朝の読書を含め、読書の時間を確保していきたい。

○授業では、「自分の考えを発表する機会が与えられている」「ふりかえる活動をよく行なっている」「ノートには学習のまとめを書いている」「授業を集中して受けている」「クラスは発言しやすい雰囲気である」などの肯定的回答が県・市町村よりわずかに高い。また「先生は、学習についてほめてくれる」「授業でわからないと先生に聞く」の割合も高い。生徒と教師の良好な関係を維持して、授業に意欲的に取り組む姿勢を今後も継続していく。

○「自分には良いところがある」「人と話すのは楽しい」の肯定的回答率が高い。自己肯定感が高く活力ある生活を送っているので、視野を広げ、自他共に認め合える場の設定を今後も継続していく。

●生活面では、「毎日朝食を食べている」「早寝早起き」の割合が県・市町村より低い。また、「家の人と学校の出来事や将来のことについて話すことがある」の否定的回答が県・市町村よりも高い。家庭との連携を図るとともに、規則正しい生活習慣の確立に努めていく。

●県・市町村に比べて、テレビゲームを全くしない生徒の割合が高い反面、平日4時間以上の生徒の割合はそれ以上に高く、差がある。また本校は、携帯電話の所持率も高く、テレビゲームや携帯の使用方法や時間について家庭と連携を図る必要がある。

●教科に関しては、国語、美術、技術・家庭が好きで、自由な発想で創作することが得意である。その反面、英語、音楽、体育は苦手意識が強い。特に、数学や英語などの積み重ねが必要な教科では、コミュニケーションを図ること等は好きだが、思考力判断力を問われると苦手となっているため、わかる授業を通して意欲の向上と継続した学びの場を設定していく。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
ICT機器の利点を生かし、主体的、対話的で深い学びを実現するための授業改善を図る。	授業公開ウィークを実施するなど、校内研修の機会を設け、ICT機器を活用した授業を、互いに公開、参観し合うことで、ICT機器の効果的な活用を促進し、職員の授業力向上を図る。	「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の肯定割合はそれぞれ71.8%、74.8%で、県や市をわずかに上回る。
学習意欲の向上を図るための教材、教具の工夫改善	ICT機器を積極的に活用し、調べ学習や、学び合いの機会を増やすことで、子供の学習意欲を高めつつ、基礎基本の定着と記述等に粘り強く取り組む態度を育む。	各教科の授業が「好きですか」「内容がよくわかりますか」の肯定割合は、いずれも市や県を上回るか同程度であり、ほぼ良好だが、学力向上につながるよう、家庭学習の充実による定着を図る。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
家で平日1時間以上、休日2時間以上勉強している割合がそれぞれ66.8%、37.2%であり、市や県と比較すると時間が短い。	学力定着のため、家庭学習の習慣化と質の向上	授業とリンクした、考えさせたり、調べさせたりする活動を取り入れた宿題を積極的に出すことで、家庭学習の成果を実感させ、自主的に取り組もうとする意欲を高める。クロームブックのAIDリルを活用し、個に応じた課題で学習させる。